

## 私のお薦めコーナー ビーチでメノウ拾いをしませんか？

知本 康男

みなさん“ビーチコーミング”って聞いたことありますか？海岸の汀線を歩いて漂着物等を観察したり収集することで、それを加工してコレクションとして楽しんだりします。漂着物には色々ありますが、今回は装飾品にもなるメノウ(瑪瑙)拾いを紹介します。まず、はじめに今年5月某日に拾ってきたメノウを写真-1に示します。

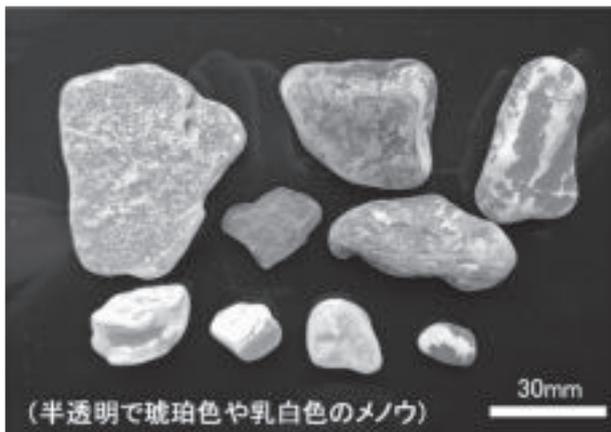


写真-1 ビーチで拾ったメノウ

そもそもメノウって何？と思われる方も多いかと思いますが、メノウは石英と同じ成分ですが、鉱物名ではありません。石英は中学校の理科で習ったように主成分が二酸化ケイ素  $\text{SiO}_2$  からなる非常に硬くて透明～乳白色の鉱物で、水晶という言葉をよく耳にします。水晶は石英の大きな結晶体で六角形断面で先が尖がっているイメージが特徴的ですよね。これに対し微小な結晶が集まってできているのが玉髄(ぎよくずい)と言って、これに色が付いたり縞状に見えたりするものをメノウと呼びます(定義は色々ありますが)。

整理すると、石英と玉髄は鉱物名ですが、水晶とかメノウは宝石や貴石の分野での呼称のようです。水晶はその独特な形状に魅力があり、パワーストーンとして有名ですが、メノウの宝石言葉も 成功・健

康・長寿・富 と言ったとても有難いものばかりです。ちょっと固い話からスタートしてしまいましたが、早速ご案内いたします。

メノウを簡単に拾うことができるビーチは、札幌から国道231号を北へ約30kmの望来海岸(下図参照)になります。ここは石狩川河口から4kmほど北上した海岸です。



図-1 メノウ拾いお勧めビーチの位置図

この海岸は写真-2のように、決して幅広い砂浜ではなく、背後には岩肌が露出する断崖絶壁が控えています。実は植生のない裸の崖がミソになります。メノウは沖からの漂着物ではなく、元来は崖の



写真-2 メノウ拾いのお勧めビーチ

最上部にある礫層から落ちたり運ばれたりしたものが、ビーチの砂浜に波で打ち上げられたものです。実際に波打ちぎわを歩いてみると、写真-3のように砂の上にメノウがぽつんと落ちています。半透明

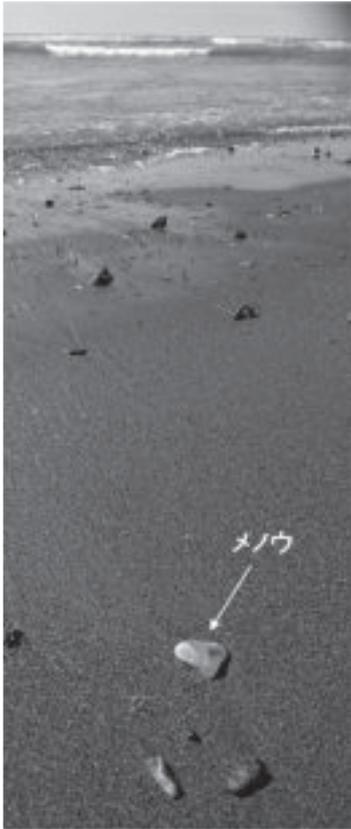


写真-3  
こんな感じで拾えます

なメノウは他の小礫とは明らかに異なる色感を放っており、簡単に見つけることができます。ビーチサンダルで歩くとより多く拾えると思います。写真-1のメノウはビーチを20分くらい歩いて拾ったものです。私がこのビーチを訪れた時、実は先客(ちびっ子連れの家族)がビニール袋を持ってメノウ拾いをしており、その足跡を追っての採取でしたので、残念ながらあまり沢山は拾えませんでした。

このようにメノウ拾いファンは案外たくさん居るのかもしれないね。なので行くのであれば、やはり朝早くがお勧めで、できれば暴風雨明けの干潮時であればより好条件かもしれません。残念ながらその日、先客がいたとしてもここで秘策をお知らせしましょう。普通は写真-4に示す波打ち帯の砂地の

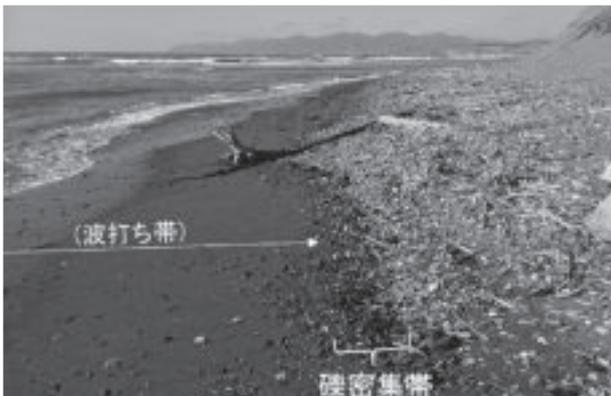


写真-4 メノウ拾いの秘策!?

上にあるメノウを見つけて歩くのが楽しみです。すでに拾われて思うように見つからない場合は、波打ち帯の一番陸側に小礫が密集して堆積している箇所があります。ここを足で崩してみると、かなりの確率でメノウを見つけることができます(私の経験上)。この場合はビーサンではなく少し底の固い靴が良いでしょう。

拾える石はメノウだけではなくありません。写真-5のように、石英やチャートの角が取れた美しい白色の小礫も沢山見つかります。これらは観賞魚用水槽の豆砂利に加えたり、家回りの犬走りの砂利に撒いたりするなどの活用法もあります。



写真-5 白色の小礫も沢山拾えます

本誌(CH151号)が皆さまのお手許に届くころには、新型コロナ騒動が落ち着いて、ビーチをゆっくり歩ける社会環境となっていることを切に願うばかりです。

知本康男 (ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)

基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

